

第3回宗像市世界遺産保存活用検討委員会 議事録

■日 時：平成29年11月24日（金）14:00～16:00

■会 場：むなかた館 講義室

■出席者：

【委員】西谷正（委員長）、葦津幹之、大方優子、河窪奈津子、黒木貴一、坂本和典、
仲間浩一、早川祥三、福島敏満、藤田直子、山野善郎

【オブザーバー】宗像大社

福岡県世界遺産登録推進室

宗像市郷土文化課

【事務局】宗像市世界遺産登録推進室

≪質疑・意見≫

1. 世界遺産グランドデザイン（仮称）素案について

【序章 グランドデザインについて】

委員：世界遺産の緩衝地帯は、漁業などへ何らかの影響があるのか。

事務局：緩衝地帯の範囲は漁業などに制限をかけるものではない。しかし、緩衝地帯の
海域を神聖な場として守っていききたいという考えはあるので、その手段について
は今後検討していきたい。

【第1章 グランドデザインについて】

委員：文化的風致景観の説明文の中に「信仰」という言葉を入れなくてもよいのか。

事務局：信仰も「風土」の中に含まれているという理解である。

【第2章 基本目標及び基本方針】

委員：「むなかた」と「宗像」という表記が見られるがどのような違いがあるのか。

事務局：過去に「宗像」という地名は一般的には読みにくいという指摘があった。また、
親しみやすさの観点からひらがなを使用している。

委員：宗像地域という場合には宗像市と福津市を合わせた範囲（おおよそ宗像群に相当）
を想定してしようしている。宗像市を超える範囲を指しているのであれば、最初に定
義を示したほうが良い。

委員：p7の図に過去の入海の範囲を示す意味があるのか。

事務局：海辺に辺津宮などが置かれていたという海との関係を示したいので記載してい
る。

委員：海岸線の時期は示したほうが良い。新原・奴山古墳群の入海も併せて示したほう
が良いのではないかと。

委員：p7の図に線路を入れたほうが良い。

委員：「社寺仏閣」という単語が見られるが意味が重複しており、「神社仏閣」などに変
更するべき。

【第3章 空間形成方針】

委員：p10 基本的な考え方の文章では、沖ノ島で祭祀がはじまり、中津宮、辺津宮に広がっていったと捉えられる。大社としてはあくまでも三社同時に祭祀が始まったという理解をしている。また、航海の安全を願う祭祀という表現が多くみられるが、アジアの交流の成就というような表現があったほうが世界遺産として相応しいのではないか。

事務局：考古学的な視点で考えると三社同時という物証がないため、現在のような表記となっている。

委員：現段階ではわからないかもしれないが、今後明らかになる可能性もある中で、断定的な書き方をしないほうが良いのではないか。

委員：基本的な考え方の文中に「国家的な祭祀」という言葉を入れてほしい。

委員：宗像三女神の信仰はヤマト王権の祭祀をきっかけとしたものではなく、昔からあった地域の人々の信仰の上に一時期国家的な祭祀が行われており、その後も地域の人々により、その信仰が守られてきたという基本的なストーリーが表現できていないのではないか。

委員：宗像山という名称は地名として確立したものなのか。

事務局：国土地理院地図では用いられているものではないが、宗像神社史の中で使用されているものであり、計画内でも用いている。

オブザーバー：世界遺産の価値としては人と海の関わりが信仰の軸として現在も続いていることにある。大社としての考え方と世界遺産としての考え方は書き分けたほうが良いのではないか。

委員：空間形成方針の中では鎮国寺などの中世以降の歴史的な建造物の整備についても課題になってくるだろう。基本的な考え方については古代で時代を切らずに、それ以降の信仰の変遷についてもにじませるような表現にしたほうが良いのではないか。

事務局：歴史の重層性が伝わるような表現を検討したい。

委員：世界遺産に登録してきたストーリーと地域の人々の生活世界を豊かにしていくストーリーは書き分けたほうが良い。基本的な考え方のうち、世界遺産に関する記載は推薦書の引用でもよいのではないか。それに地域の人々の信仰や将来への期待などを肉付けしていけばよいのではないか。

委員：確定的な書き方をせずに、現時点での判断ということを明記すれば問題はないだろう。

委員：推薦書に記載されたものが基本だと思うので、それをわかりやすく伝えればよいだろう。

【第4章 グランドデザインの推進に向けて】

委員：以前海底の地形図を見たときに海流の流れなどが非常によく理解できた。そのようなわかりやすい表現になると良い。

委員：海底の地形図については今度の市史編纂で記載する予定なのでタイミングが合えば参考にしてもらえればと思う。

委員：p23「世界遺産（文化遺産）」という表現があるが最初だけでよいのではないか。

また、図や写真に通し番号を入れてほしい。また、キャプションの位置については上で図は下が一般的である。

委員：グランドデザインは市民に広く読んでもらうことが大切である。p23 の文章は世界遺産の顕著な普遍的な価値は地域の人々の生活世界の充実が底支えしているということがはっきりとわかるような内容にしてもらいたい。

委員：p24 の図は四塚連山の表記がない。また、本土側を大きく表現したほうが良いのではないか。

2. 文教施設のコンセッション事業に関する先導的開発事業について

委員：本事業の期間はいつまでなのか。

事務局：今年度内の事業である。

委員：既存関連施設の機能を対象エリア内で集約的に再編していくという考え方なのか。

事務局：基本的な考え方として既存関連施設が持っている機能については維持をしていく。それに加え、推薦書の課題となっている調査・研究などに関する機能も併せて検討していくものである。

委員：検討のなかで施設配置の絵が出てくるのか。

事務局：施設の具体的な配置はこの事業の中で検討していくことになる。

委員：既存関連施設のうち収蔵庫などは老朽化も進行しており、活用できるのか疑問である。

事務局：そのまま今の建物を活用できるのか、建て替えが必要なのかも今後検討していく。

委員：この委員会ではどのような検討を行っていくのか。

事務局：役割分担については来月の検討委員会の中で示していきたい。

委員：対象範囲内だけの動線ではなく、周辺から対象範囲までのアプローチの動線についても併せて検討してもらいたい。

3. その他

委員：本委員会と世界遺産保存活用協議会との関係はどうなるのか。

事務局：協議会は宗像市としては市長が出席することになる。直接本委員会と関わることはないが、議題によっては本委員会に諮問することになる。

4. 次回開催日

平成 29 年 12 月 13 日（水）午後 2 時～